

**the
Quintessence**

Volume 7 No. 5 別刷 1988年 5月10日発行

Daryl Beach

Comments in a nutshell

1

HPI(ヒューマン・パフォーマンス研究所)

連絡先：静岡県熱海市田原本町9-1熱海第一ビル

QUESTION

エイズや肝炎の院内感染の問題が大きく注目されていますが、この問題に対しどのように対処すればよいのでしょうか？(K)

ANSWER

エイズや肝炎の感染防止のため、現在、歯科医院における手袋やマスクの使用や厳密な滅菌消毒法が勧められていますが、それにかかわる用具、機器、手順等の費用便益性(cost-effectiveness)を評価することは、依然として困難です。感染防止のためのルーチン作業を従来のシステムに追加することは、リスクと効果の信頼性のある評価に基づいて実施されるべきであり、評価の結果、必要がないということが判れば、排除すべきです。

用具や手順を追加する前に、治療エリアから不必要なインスツルメントや器械、ルーチン手順をすべて排除すべきです。そうすれば感染防止対策をもっと簡素化することができ、操作ミスの可能性も削減できるでしょう。以下は、可能な対策の一例です：

1. 使用インスツルメントの種類を減らす。

インスツルメントの種類を、慎重な選択によって、たとえば「衛生処置と歯周治療のためのスケーラーが2種類、切削用のハンドピースが2種類、バーが3種類、ダイヤモンド・ポイントが3種類、抜歯鉗子2種類、エレベーター2種類、探針1種類」のように、最小限にしぼることができます。

2. 治療エリアおよびインスツルメント上の小面の数を最小限にする。なめらかで丸みをおびた表面の方が、角張った、粗面または溝のついた表面より清掃しやすいからです。

3. フレックス・アーム、滑車、アーム・レスト、リーン・バー(腰あて、もたれかかるためのバー)などのポジション設定装置やデンタル・チェアーの傾斜装置を排除する。手指で操作するスイッチ、60センチ以上の長いインスツルメントのチューブなども排除する。歯科医用のスツール、アシスタント用のスツールを床に取りつける。インスツルメント用のトレイ、バキューム、スリーウェー・シリンジ、ハンドピース、ライト、その他の装置の場所も固有感覚*に基づいて固定するように心がけるべきです。

このような条件を確立し、治療中の精密な知覚を確保すれば、私たちは、手指の接触回数を最小

限にとどめた上で、1) 患者、われわれ自身、インスツルメント、器械などの位置を決め、2) 治療を行い、3) 清潔さ(滅菌の状態)を維持することができます。このような治療環境および治療手順の単純化は、理想的な治療方法と理想的な治療エリアの配置を固有感覚に基づいてもとめるために必要な、高度の自覚があって初めて成功裡に実施できるものです。

なお、他人に触れることを恐れているかのような印象を与える感染防止策は、患者を歯科医院から遠ざけることになります。

*注：固有感覚機序＝位置および運動の感覚により、筋運動を調節し平衡を保持する機序。

QUESTION

固定式の治療ライトについてどう思われますか？ 不利な点はありますか？ 固定式のライトを用いて咬合採得ができますか？(M)

ANSWER

私は歯科医はすべて固定式のライトを使用すべきだと思います。卒後教育の場で、何百人という歯科医が患者を治療するのを観察してきましたが、その結果、治療中可動式ライトが適切なポジションに設定されていることはほとんどなく、可動式ライトはむしろ治療のハンディになっている場合が多いという結論に達しました。というのは誤った位置にあるライトは、術者の姿勢、位置および作業ベクトルを変えるからです。

固定式ライトが使用されているということは、秩序正しい治療が行われており、人間と人間の間のポジション設定や動作の自発性が理解されているということの主要な指標です。また固定式ライトを使用している歯科医は、正しい方向に動く優しい指を持ち、バランスの取れた姿勢、および最小のストレスで治療を行っているといえます。な

ぜならバランスのとれた姿勢との関連で、歯科治療のための基本的な指のコントロールと視線確保のスキルが身につけていなければ、固定式ライトで治療することはほとんど不可能だからです。

もちろん固定式ライトは、清潔さないし感染コントロールの考慮にも沿ったものです。というのは手指の接触の回数が大幅に減るからです。

不利な点ですか？ 患者の中には、光線パターンの上端が口と目の間に入るように、ヘッドレスト上で体の位置を少し上か下にずらす必要のある人がいる点です。ただし、可動式ライトの注意散漫や操作ミスと比較すると、ごくわずかな手間です。

警告：固定式ライトは、固定された水平面上で患者頭部の場所と角度が正しく定義されている場合のみ適合するものです。固定された水平面上では、ちょうどわれわれが夜間就寝するとき自分の頭部を枕の位置に持っていくように、指定された場所に自分の頭部を自由に持っていったり、そこから離れたたりできます。したがって固定式ライトはデンタル・チェアーには取り付けないように注意して下さい。

水平面は、私たちにとって最も座りやすく、横たわりやすく、また最も自由に自分自身のポジションを決めることができるものです。このことは、身体障害者を含め、すべての人にあてはまります。

咬合採得について水平面で採るべきか否かという議論がありますが、咬合位もまた、患者が水平に横たわっている時に最も容易に再現できるでしょう。何を基準に術者の容易さを測れるかというと、術者の頭部のバランス、ゆるやかに下垂した肩と肘、リラックスした手首と指、そして目的を達成するための指の動線の数最少であることなどによって判断されます。(文責 三明)